

令和7年度 全国学力・学習状況調査
調査結果と今後の取組について【公表版】
～本校における調査結果～



旭川市立神楽中学校
令和7年(2025年) 8月

はじめに

本校では、確かな学力の育成に向けて、旭川市教育委員会が策定した「令和7年度旭川市確かな学力育成プラン」に基づき、「学びを深める授業づくり」、「落ち着いた学級づくり」、「望ましい習慣づくり」の3つの指導の重点を踏まえた取組を推進するとともに、令和7年度神楽中学校学校経営方針における年度の指導の重点として、【主体的・対話的で深い学びによる確かな力を育む学習指導】を設定し、ICTの活用の工夫や、学び合いの活性化、基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る指導の充実、家庭との連携による望ましい学習習慣や学び方を身につけさせる指導の徹底などに努めてきました。

このような中、本年7月に、国から令和7年度全国学力・学習状況調査結果の提供を受け、1学期中に、調査を実施した生徒の個人票を各生徒に返却するとともに、本校全体の結果の概要について、3年生及びその保護者にお知らせしました。その後、本調査の実施要領に示されている「調査の目的」及び「調査結果の取扱いに関する配慮事項」などを踏まえ、この度、本校の結果を取りまとめたところです。

結果の分析等に当たっては、国や北海道の調査結果に関する諸資料を参考にするとともに、生徒質問調査の質問項目について、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、挑戦心、自己有用感、幸福感等、学習習慣、学習環境等、学力に影響を及ぼすと思われるカテゴリーごとに結果を整理し、各教科の正答率との相関について明らかにするよう努めました。

本校の全教職員が本調査の結果について共有し、2学期以降も共通理解のもと、確かな学力の育成に向けた取組を一層充実してまいります。

令和7年8月

旭川市立神楽中学校長
辻 並 浩 樹

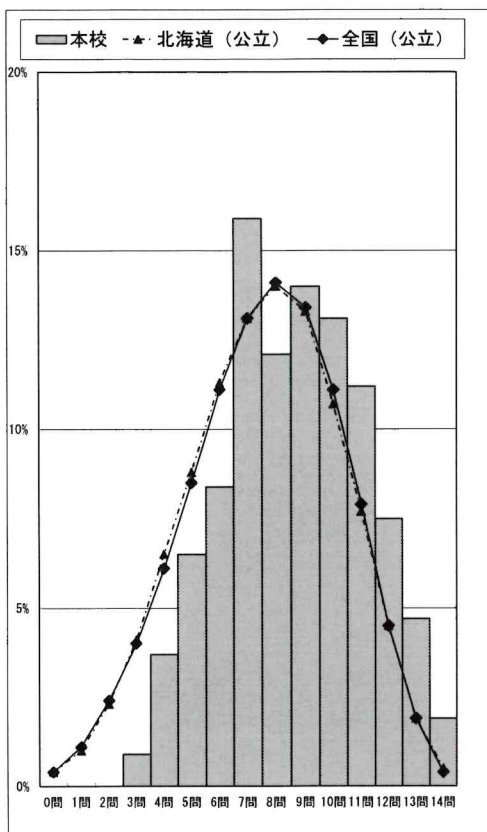
【 目 次 】

1	教科に関する調査	
■	国語	1
■	数学	2
■	理科	3
2	生徒質問調査	
■	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	5
■	挑戦心、達成感、自己有用感、幸福感等	7
■	学習習慣、学習環境等	11
■	ICTを活用した学習状況	12
■	総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	13
3	教科に関する調査結果と生徒質問紙調査結果の相関	15
4	分析結果と学力向上に向けた今後の取組	
■	分析結果のポイント	19
■	令和7年度2学期以降の取組（取組の方向性と具体策）	20
■	【参考データ】※第1回神中生アンケート（R7.7実施）結果	21

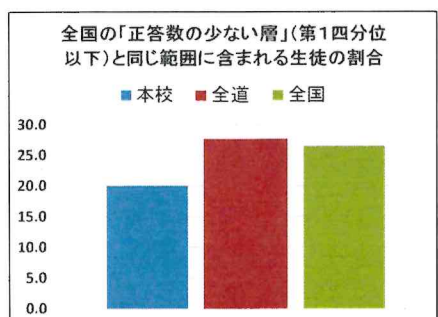
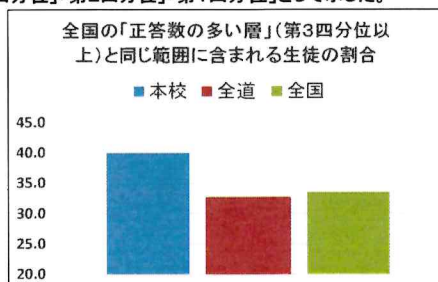
1 教科に関する調査

国語

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



※ 生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。



問題別集計結果

は全国の平均正答率を超えていたもの

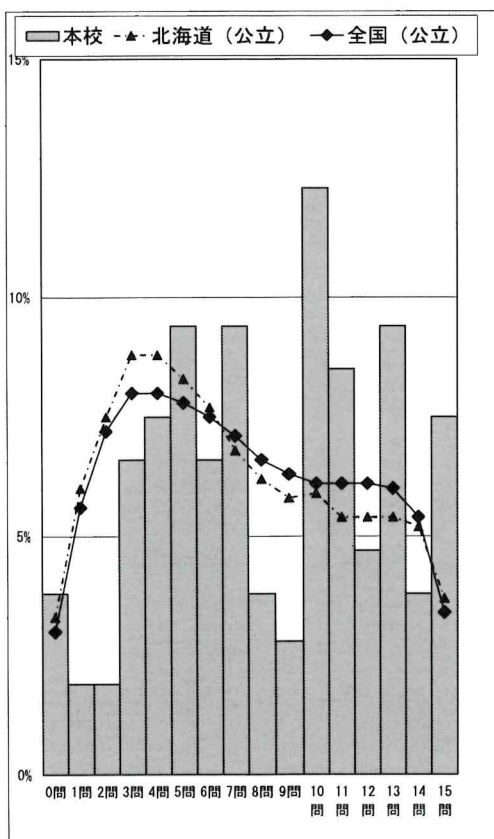
問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1一	変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる
1四	ちらしの読み手に向けて、今年のお美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる

※「成果が見られた設問」…正答率が全国平均以上の設問
「課題が見られた設問」…正答率が全国平均未満で、なおかつ、正答率が50%未満の設問

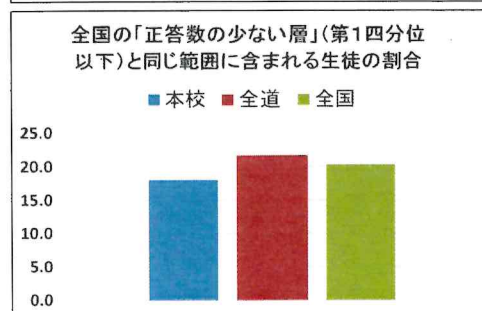
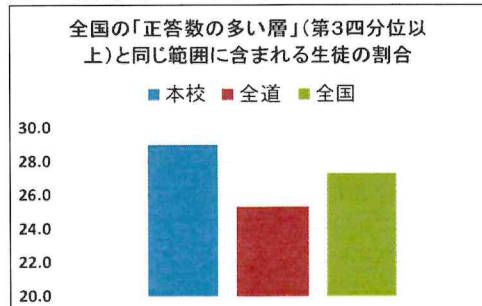
○成果が見られた設問数は、全14問中 13問でした。
○課題が見られた設問数は、全14問中 0問でした。

数学

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



※ 生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。



問題別集計結果

は全国の平均正答率を超えていたもの

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる
2	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる
3	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる
6 (1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる
6 (2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる
6 (3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる
7 (1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる
7 (2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる
8 (1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる
8 (2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおおよ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる
9 (1)	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる
9 (2)	平行四辺形ABCDの辺BC、ADを延長した直線上に $BE = DF$ となる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる
9 (3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に $BE = DF$ となる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる
9 (2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる

※「成果が見られた設問」…正答率が全国平均以上の設問

「課題が見られた設問」…正答率が全国平均未満で、なおかつ、正答率が50%未満の設問

○成果が見られた設問数は、全15問中 13問でした。

○課題が見られた設問数は、全15問中 0問でした。

理科

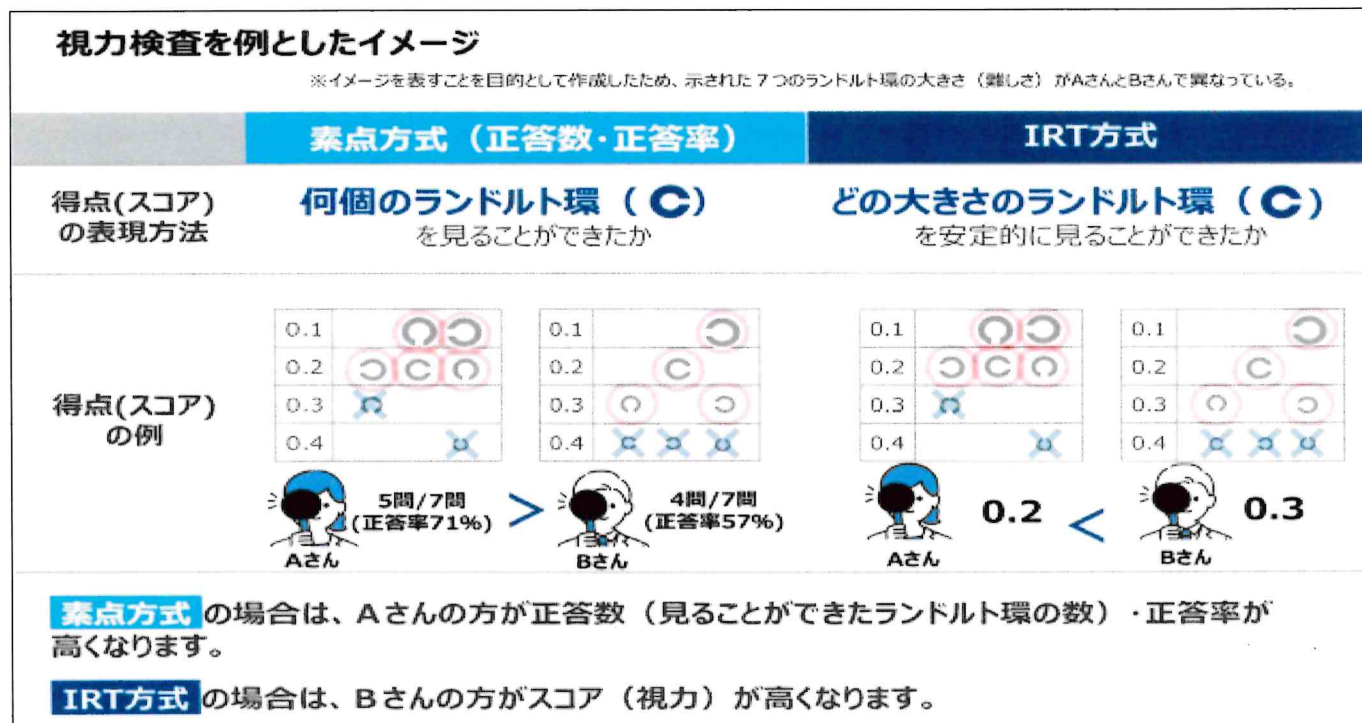
令和7年度調査「中学校理科」でCBT・IRTが導入された。CBTとはComputer Based Testingの略でコンピュータを使って行う試験方法を言い、本校では、1人1台端末(iPad)を用いて実施した。

IRTとはItem Response Theory(項目反応理論)を言い、国際的な学力調査(PISA、TIMSSなど)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFLなど)で採用されている。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できる。

※令和8年度は中学校英語、令和9年度は国語、算数・数学において、CBT・IRTが導入される。

□IRTに基づく調査のイメージ

※出典: 令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRTを用いた結果返却について(文部科学省)

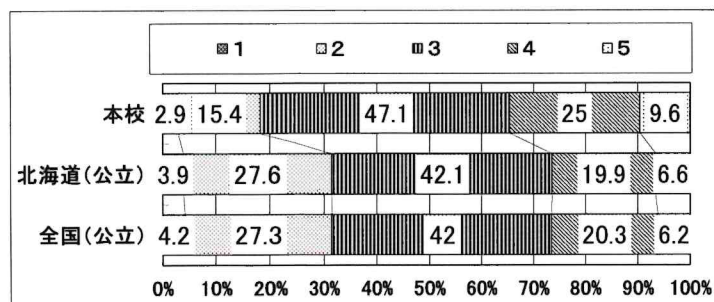


※IRTバンド

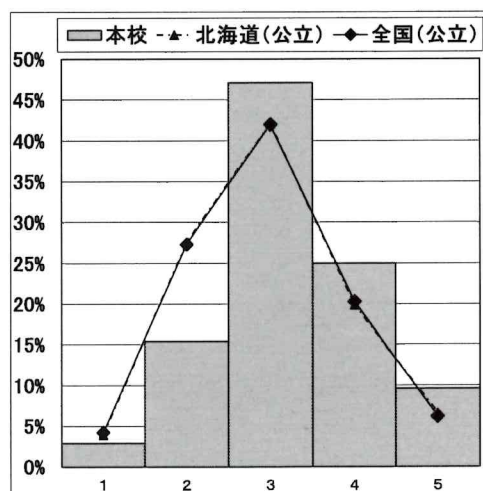
IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

(各教科にCBT・IRTを導入する年(中学校理科: R7、中学校英語: R8、国語、算数・数学: R9)の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。)

IRTバンド分布グラフ(横軸: IRTバンド 縦軸: 割合)



IRTバンド分布グラフ(横軸: IRTバンド 縦軸: 割合)



※「成果が見られた設問」…正答率が全国平均以上の設問

「課題が見られた設問」…正答率が全国平均未満で、なおかつ、正答率が50%未満の設問

○成果が見られた設問数は、全22問中 17問でした。

○課題が見られた設問数は、全22問中 3問でした。

・課題が見られた主な設問は1(3)でした。※問題の概要や出題の趣旨は次ページ参照

・改善策

—地層の重なり方について、時間的・空間的な視点から捉えて、粒の大きさとすき間から、水が上から下に移動することを分析して解釈するよう指導する。

—小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を身につけて、土地の成り立ちや構成物などについて理解させ、観察器具の操作や記録の仕方などを指導する。

問題別集計結果

は全国の平均正答率を超えていたもの

問題番号	問題の概要	出題の趣旨
1 (1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる
1 (2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる
1 (3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる
1 (4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる
1 (5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる
1 (6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる
2 (2)	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる
3 (1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる
3 (2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる
4 (1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大きさを判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる
4 (2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる
5 (1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る
5 (2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる
6 (1)	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる
6 (2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる
7 (1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる
7 (2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる
8 (1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる
8 (2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる
9 (1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる
9 (2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる

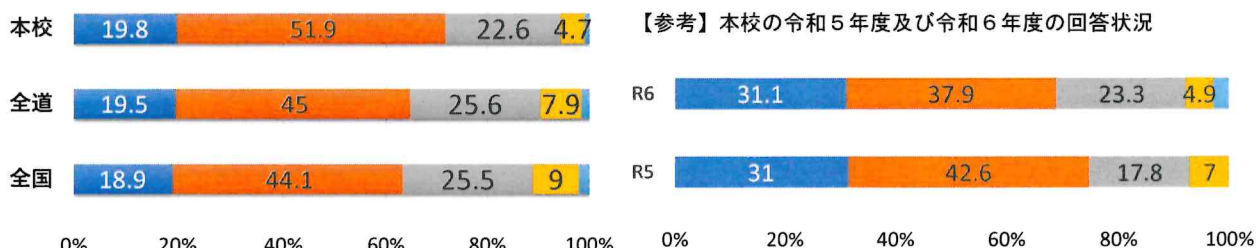
2 生徒質問調査

■主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

①1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

(質問番号31)

■ 1. 発表していた ■ 2. どちらかといえば、発表していた ■ 3. どちらかといえば、発表していなかった ■ 4. 発表していなかった

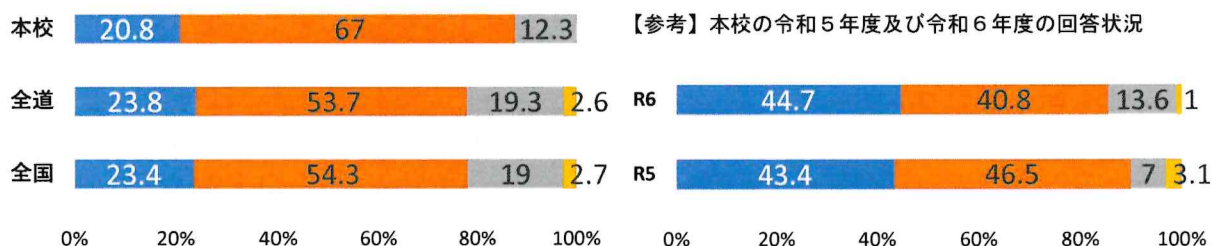


「1. 発表していた」と回答している生徒の割合は、全国・全道と同程度である。「2. どちらかといえば、発表していた」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は71.7%であり、全国と比べて8.7ポイント高く、前年度の本校と比べてもやや高い。

②1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

(質問番号32)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない

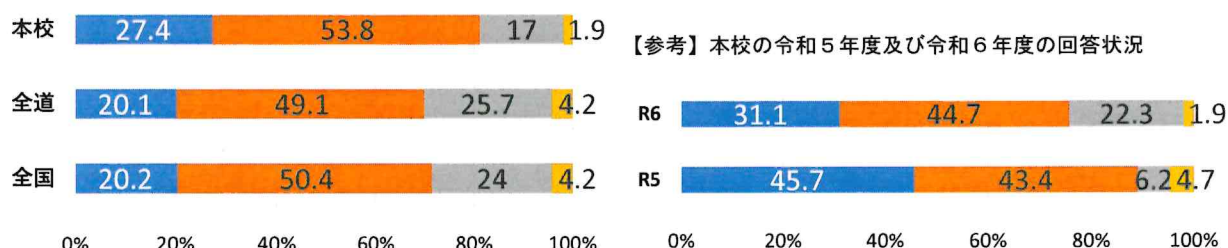


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて2.6ポイント低い。「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国と比べて10.1ポイント高い。令和5年度からの3か年において、肯定的な回答の割合が全国と比べて大変高く、特徴的な傾向と言える。

③1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

(質問番号33)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない

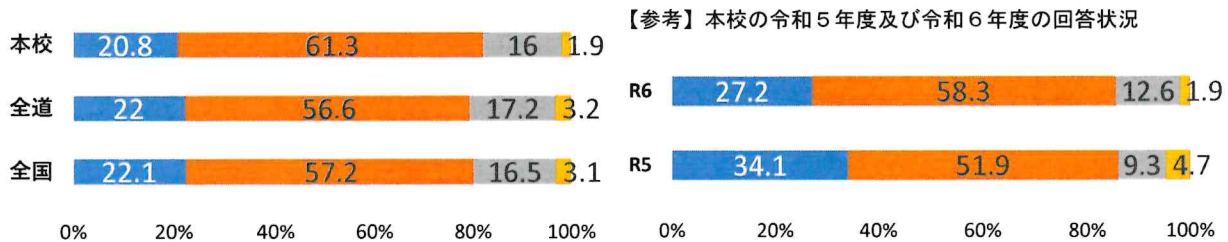


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて7.2ポイント高い。「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国と比べて10.6ポイント高く、前年度の本校と比べても5.4ポイント高い。

④1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

(質問番号34)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない

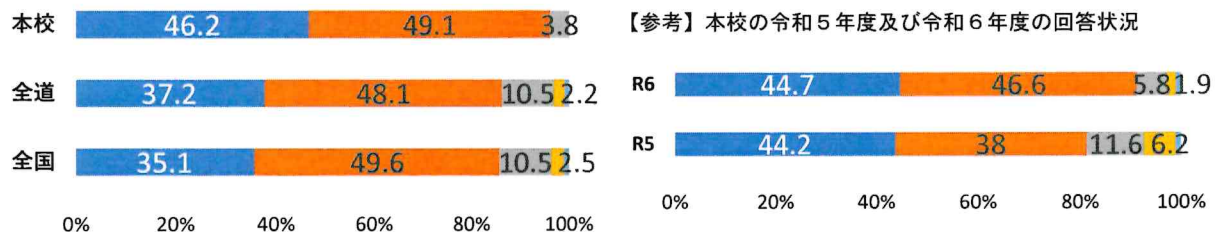


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国・全道と同程度であり、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合も、全国・全道と同程度である。令和5年度からの3か年において、本校の「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合や、肯定的な回答の割合はやや低くなっている傾向が見られる。

⑤学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

(質問番号35)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない
■ 5. 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない。

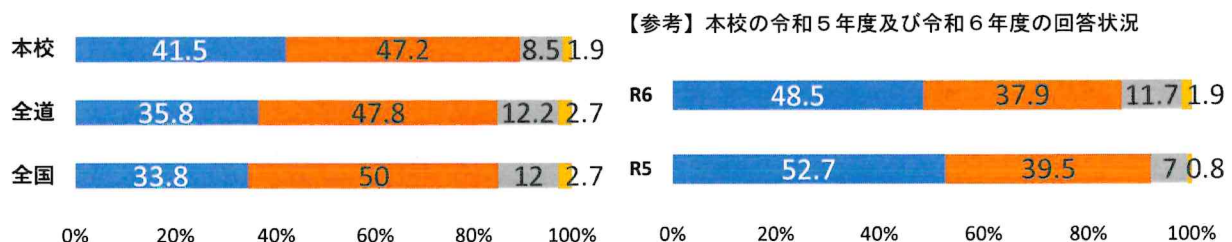


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて11.1ポイント高い。令和5年度及び令和6年度の本校の回答状況も、全国と比べて10ポイント程度またはそれ以上高く、特徴的な傾向と言える。令和5年度からの3か年において、本校の「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合や、肯定的な回答の割合は高くなっている傾向が見られる。

⑥先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

(質問番号38)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない

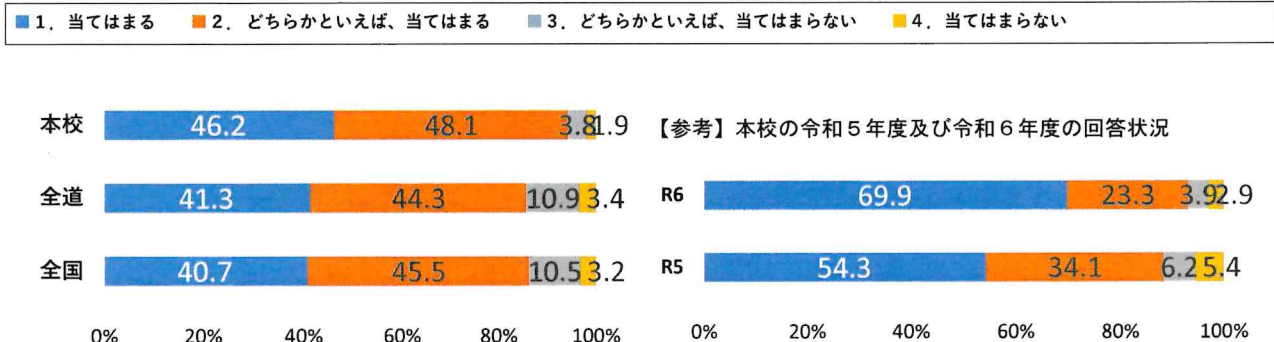


「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて7.7ポイント高い。令和5年度からの3か年において、本校の「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は低くなっているが、肯定的な回答の割合は高い傾向を維持したままほぼ横ばいである。

■挑戦心、達成感、自己有用感、幸福感等

⑦自分には、よいところがあると思いますか

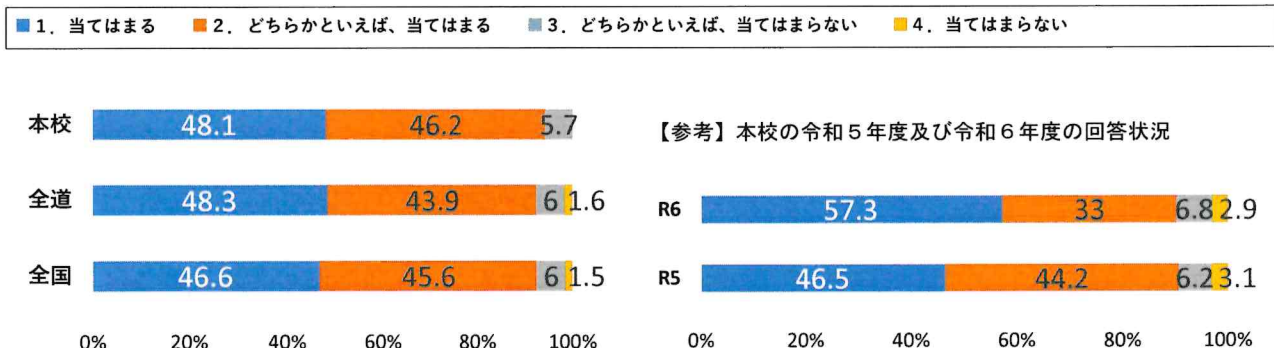
(質問番号5)



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて5.5ポイント高い。令和5年度、6年度の本校の状況と比較し低く思われるが、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は、令和5年度から増加傾向にあり特徴的な回答状況と言える。

⑧先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

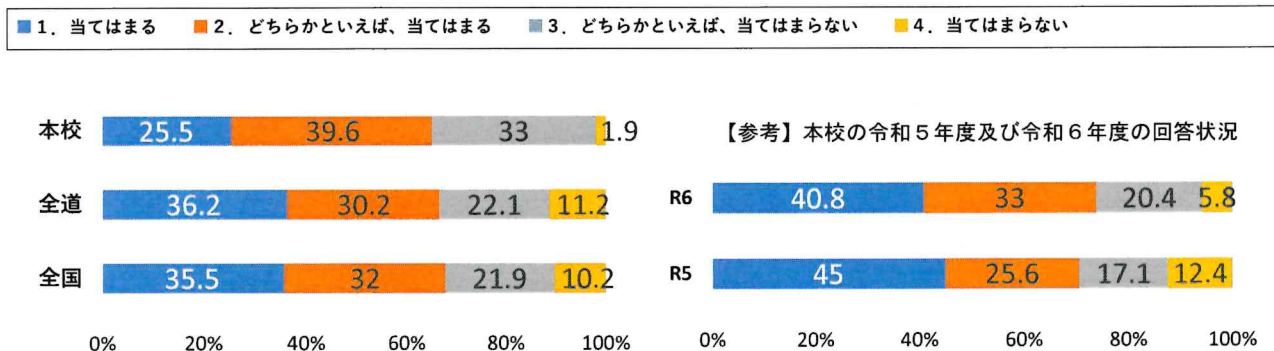
(質問番号6)



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国・全道と同程度である。前年度の本校と比較し、8.8ポイント低くなっているが、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は、令和5年度及び令和6年度と比較し増加している。

⑨将来の夢や目標を持っていますか

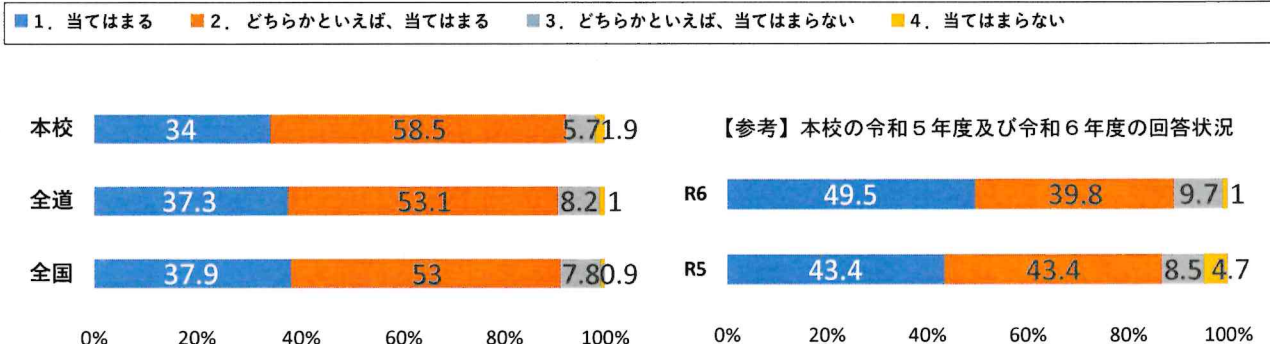
(質問番号7)



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて10.0ポイント低い。「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国・全道と同程度である。本校の令和5年度及び令和6年度の状況と比較しても、低くなっている傾向が見られ、特徴的な回答状況と言える。

⑩人が困っているときは、進んで助けていますか

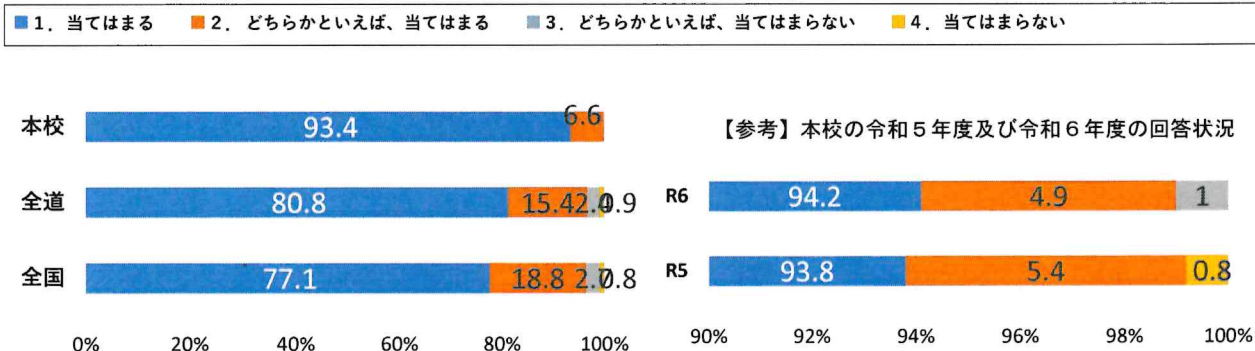
(質問番号8)



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて3.9ポイント低い。「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国・全道と同程度である。本校の令和5年度及び令和6年度の状況と比較し、肯定的な回答の割合がやや増加傾向にある。

⑪いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

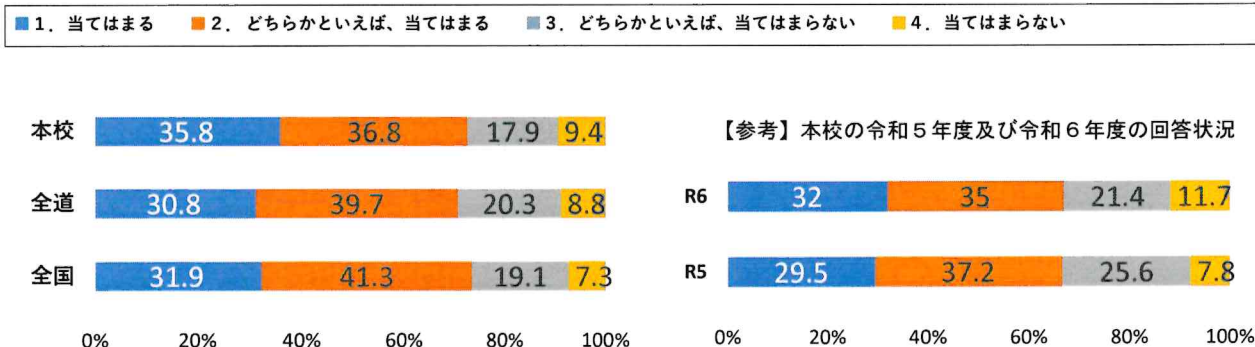
(質問番号9)



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて16.3ポイント高く、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は、100%であった。令和5年度からの3年間の本校の回答状況において、「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合が、全国と比べて非常に高く、特徴的な傾向と言える。

⑫困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

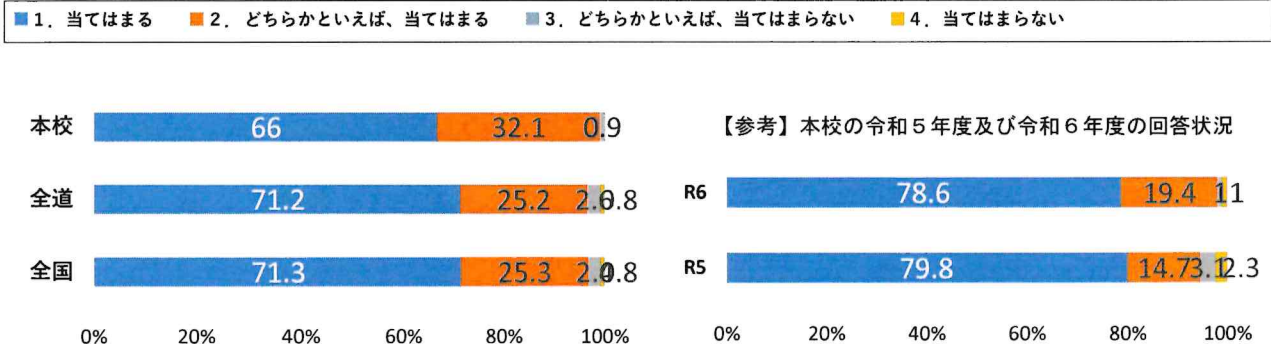
(質問番号10)



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて3.9ポイント高い。「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国・全道と同程度である。本校の令和5年度及び令和6年度の状況と比較し、肯定的な回答の割合が増加傾向にある。

⑬人の役に立つ人間になりたいと思いますか

(質問番号11)

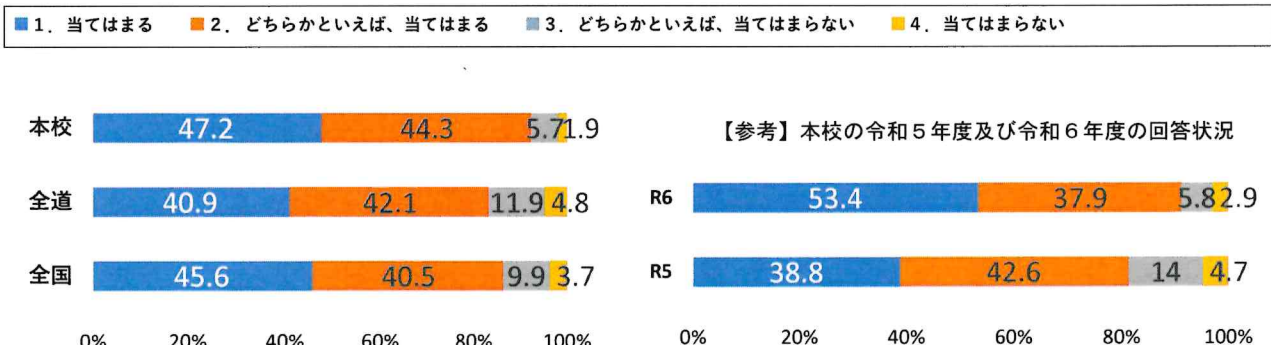


【参考】本校の令和5年度及び令和6年度の回答状況

「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて5.3ポイント低く、本校の令和5年度及び令和6年度の状況と比較しても低い。「2. どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は98%を超えており、全国・全道と同程度である。

⑭学校に行くのは楽しいと思いますか

(質問番号12)

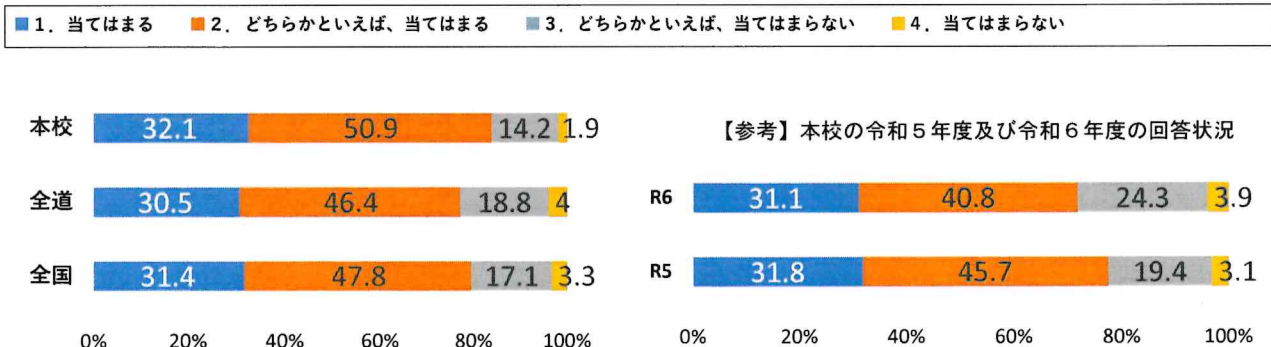


【参考】本校の令和5年度及び令和6年度の回答状況

「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べてやや高く、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は全国と比べて5.4ポイント高い。令和4年度からの本校の回答状況において、「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合が、全国と比べて、令和4年度は13.9ポイント低く、令和5年度は4.5ポイント低かったことを考慮すると、令和6年度以降調査の傾向と言える。

⑮自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

(質問番号13)



【参考】本校の令和5年度及び令和6年度の回答状況

「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国・全道とほぼ同程度であるが、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合を全国と比較すると、4.8ポイント高い。令和4年度から令和6年度までの3年間の本校の回答状況において、肯定的な回答の割合を比較すると、年々低くなっている傾向があったが、今年度、増加に転じた。

⑩友達関係に満足していますか

(質問番号14)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない

本校 57.5 35.8 5.70

【参考】本校の令和5年度及び6年度の回答状況

全道 56.3 34.1 7.42

R6 73.8 22.3 2.91

全国 56.4 35 6.61.7

R5 61.2 29.5 7 2.3

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合、及び「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国・全道と同程度である。令和6年度の本校は、「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合や、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合が、全国と比べて大変高く、特徴的な傾向を示していたと言える。

⑪普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

(質問番号15)

■ 1. よくある ■ 2. ときどきある ■ 3. あまりない ■ 4. 全くない

本校 52.8 43.4 2.8.9

【参考】本校の令和5年度及び6年度の回答状況

全道 45.4 45.3 8.30.7

R6 60.2 33 5.81

全国 46.4 45.2 7.30.7

R5 48.8 47.3 3.9

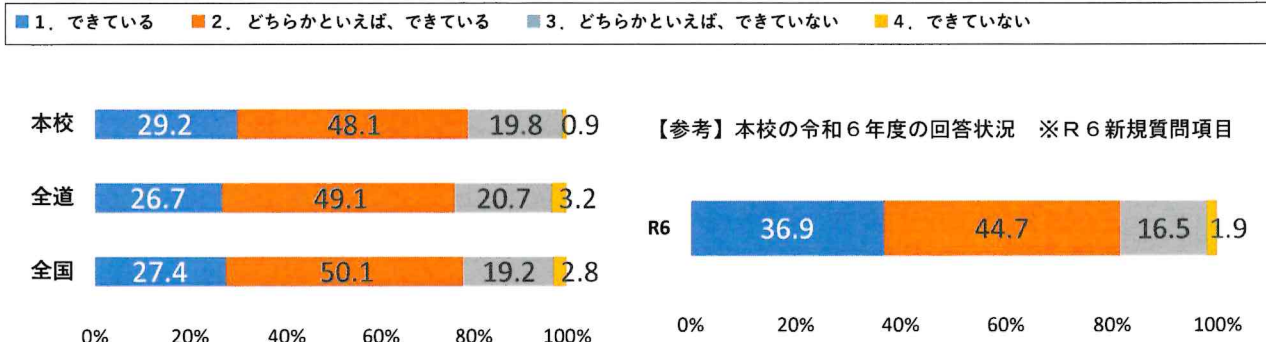
0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

「1. よくある」と回答している生徒の割合は、全国と比べて6.4ポイント高い。令和6年度の本校の状況と比べて7.4ポイント低くなっているが、「2. ときどきある」を含めて肯定的な回答の割合が、96.2%であり、全国の状況及び令和6年度の本校の状況と比べて高くなっている。

■学習習慣、学習環境等

⑩分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

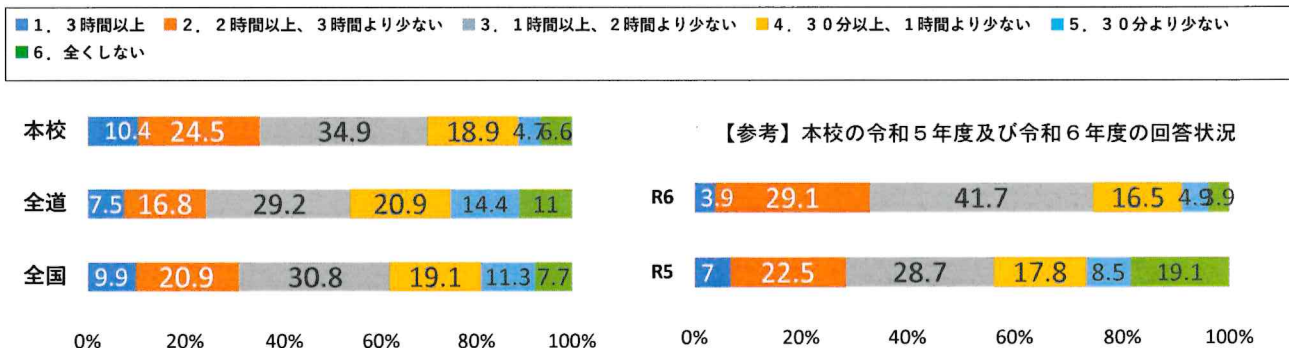
(質問番号16)



全国・全道の状況と同程度である。令和6年度の本校の状況と比べて「1. できている」と回答している生徒の割合は7.7ポイント低く、「2. どちらかといえば、できている」も含めた肯定的な回答の割合もやや低くなっている。

⑪校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

(質問番号17)



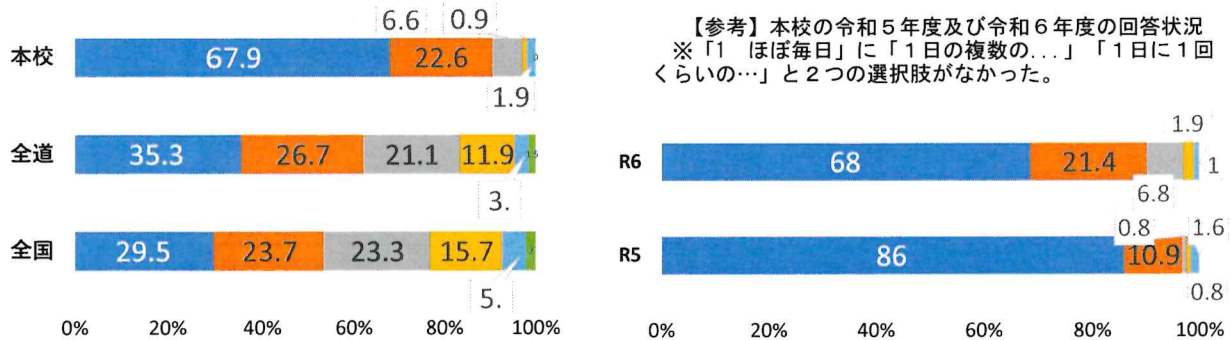
「1. 3時間以上」と回答している生徒の割合は、全国と比べてやや高く、令和5年度からの本校の回答状況と比較しても最も高い。回答1から3までを合わせた「1時間以上」の割合は69.8%であり、全国より高く、令和6年度調査から改善傾向が見られる。

■ICTを活用した学習状況

②①1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

(質問番号28)

■ 1. ほぼ毎日 (1日に複数の授業で活用) ■ 2. ほぼ毎日 (1日に1回くらいの授業) ■ 3. 週3回以上 ■ 4. 週1回以上 ■ 5. 月1回以上

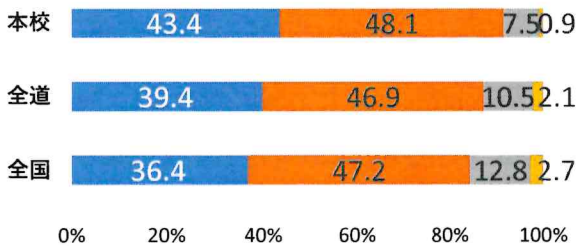


「1. ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」と回答している生徒の割合は、全国と比べて38.4ポイント高い。1と2を合わせた「ほぼ毎日」活用していると回答している生徒の割合は、全国・全道と比べて非常に高く、令和5年度及び令和6年度と比較しても最も高く、特徴的な傾向と言える。

②②あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると感じますか

(質問番号29-1 ※R7新規質問項目)

■ 1. とてもそう思う ■ 2. そう思う ■ 3. あまりそう思わない ■ 4. そう思わない



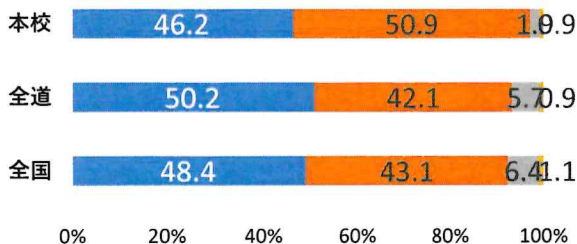
※令和5年度及び令和6年度には類似の質問項目なし

「1. とてもそう思う」と回答している生徒の割合は、全国と比べて7ポイント高い。「2. そう思う」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合が、91.5%に上り、全国と比較して7.9ポイント高い。

②③あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると感じますか

(質問番号29-2 ※R7新規質問項目)

■ 1. とてもそう思う ■ 2. そう思う ■ 3. あまりそう思わない ■ 4. そう思わない



※令和5年度及び令和6年度には類似の質問項目なし

「1. とてもそう思う」と回答している生徒の割合は、全国と比べて2.2ポイント低い。「2. そう思う」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合が、97.1%であり、全国と比べて5.6ポイント高い。

㉓あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか

(質問番号29-3 ※R7新規質問項目)

■ 1. とてもそう思う ■ 2. そう思う ■ 3. あまりそう思わない ■ 4. そう思わない

本校 21.7 50 20.8 6.6

※令和5年度及び令和6年度には類似の質問項目なし

全道 21.7 42.7 29.1 5.3

全国 21.1 42.2 29.8 5.7

0% 20% 40% 60% 80% 100%

「1. とてもそう思う」と回答している生徒の割合は、全国・全道と同程度である。「2. そう思う」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国と比べて8.4ポイント高い。

㉔あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか

(質問番号29-4 ※R7新規質問項目)

■ 1. とてもそう思う ■ 2. そう思う ■ 3. あまりそう思わない ■ 4. そう思わない

本校 37.7 49.1 10.4 1.9

※令和5年度及び令和6年度には類似の質問項目なし

全道 36.2 45.3 14.1 3.4

全国 31.8 44.8 17.7 4.7

0% 20% 40% 60% 80% 100%

「1. とてもそう思う」と回答している生徒の割合は、全国と比べて5.9ポイント高い。「2. そう思う」を含め肯定的な回答をしている生徒の割合は、全国と比べて、10.2ポイント高い。

■総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳

㉕総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

(質問番号40)

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない

本校 35.8 50 11.3 2.8 【参考】本校の令和5年度及び令和6年度の回答状況

全道 35.6 47.5 13.5 2.9 R6 40.8 46.6 10.7 1.9

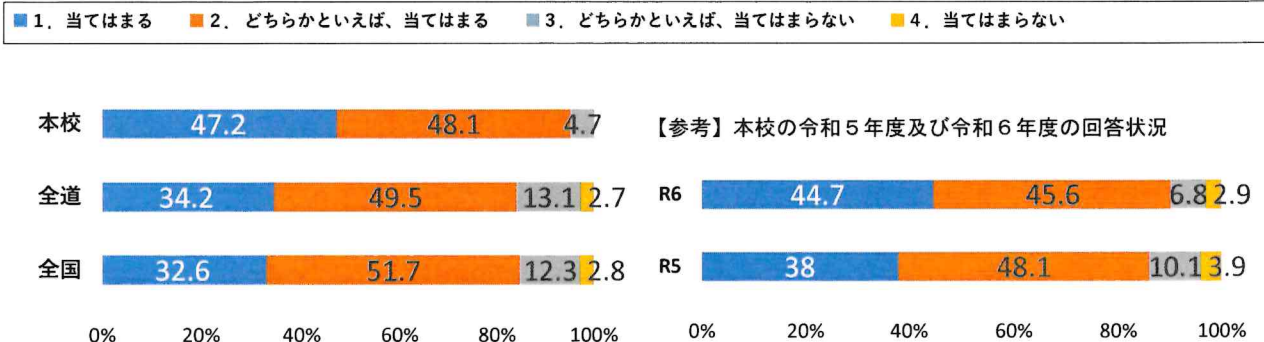
全国 29.8 49.7 16.3 3.7 R5 33.3 50.4 10.1 6.2

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて6ポイント高い。令和6年度の本校の状況と比較し低く思われるが、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は、令和6年度と同程度である。

②⑥あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

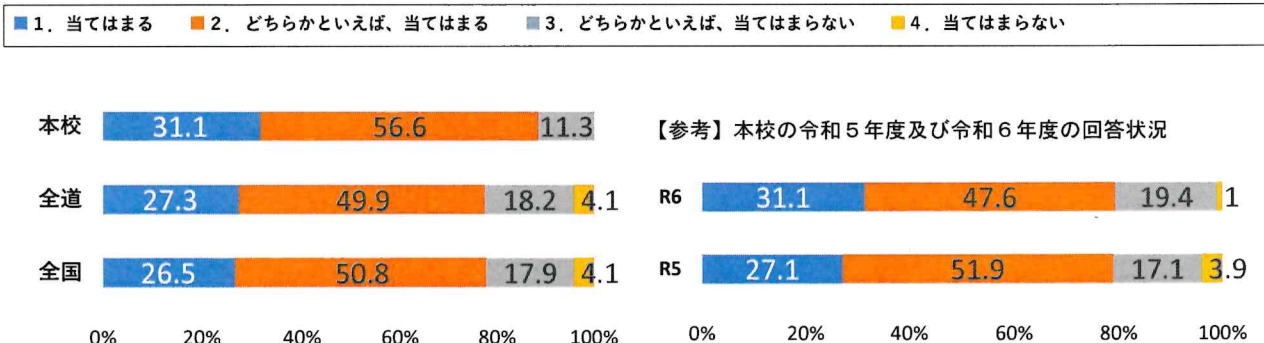
(質問番号41)



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて14.6ポイント高い。令和5年度以降の本校の状況について、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は増加傾向にあり特徴的な回答状況と言える。

②⑦学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

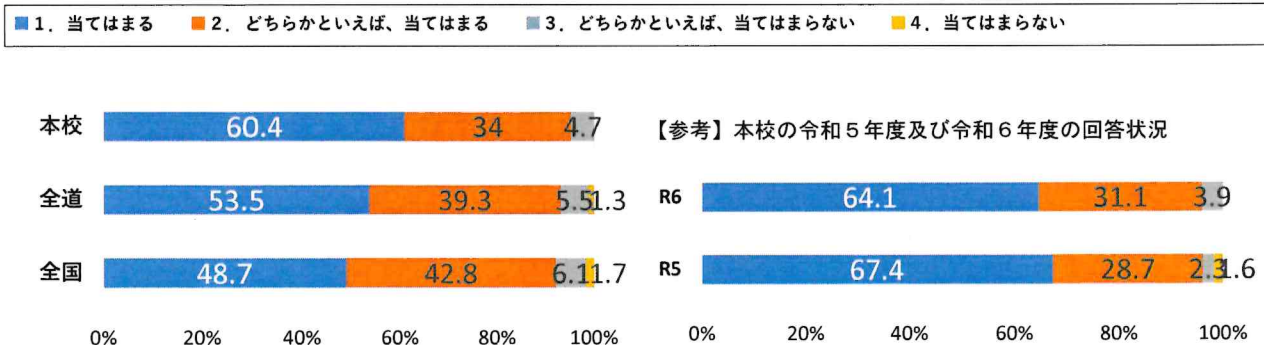
(質問番号42)



「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて4.6ポイント高い。「2. どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は87.7%であり、令和5年度以降の本校の結果において、最も高かった。

②⑧道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

(質問番号43)



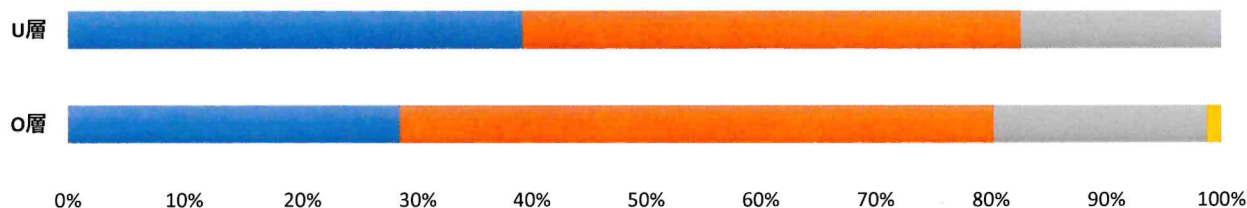
「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合は、全国と比べて11.7ポイント高い。令和5年度以降低くなっている傾向が見られるが、「2. どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合は、令和5年度以降同程度である。

3 教科に関する調査結果と生徒質問調査結果の相関

教科に関する調査のうち国語・数学の2教科両方において、本校の調査実施生徒107人の中で、「正答数の多い層」(第3四分位以上)に含まれる生徒をU層(Upper)(23人)、それ以外の生徒をO層(Others)(84人)とし、それぞれの生徒質問調査の結果を比較した。「1. 当てはまる」と回答している生徒の割合が10ポイント程度以上他方と比べて高く、かつ「2. やや当てはまる」を含めた肯定的な回答の割合も高い項目を両者の間で有意な差が認められる質問項目とし次のとおり示した。

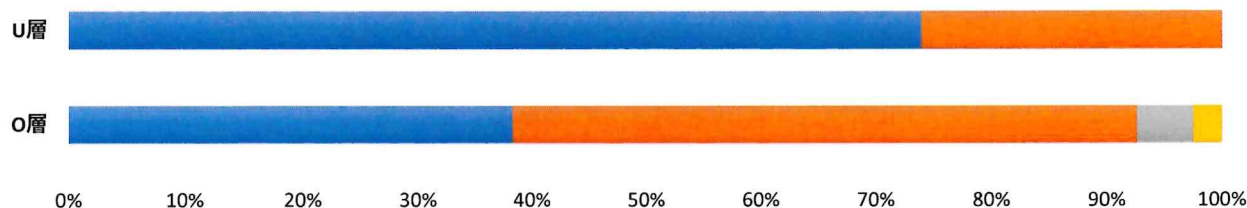
【質問番号2】 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

■ 1. している ■ 2. どちらかといえば、している ■ 3. あまりしていない ■ 4. 全くしていない



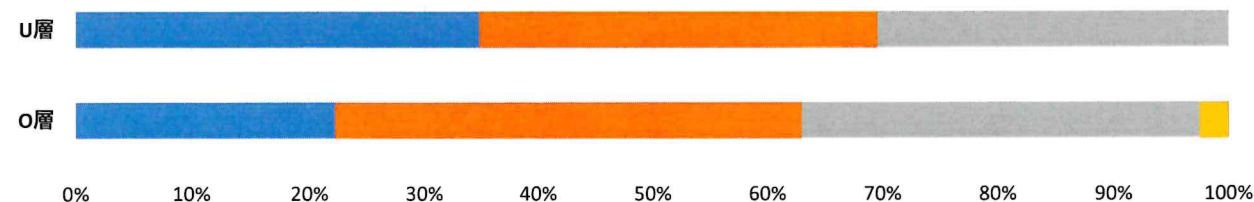
【質問番号5】 自分には、よいところがあると思いますか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



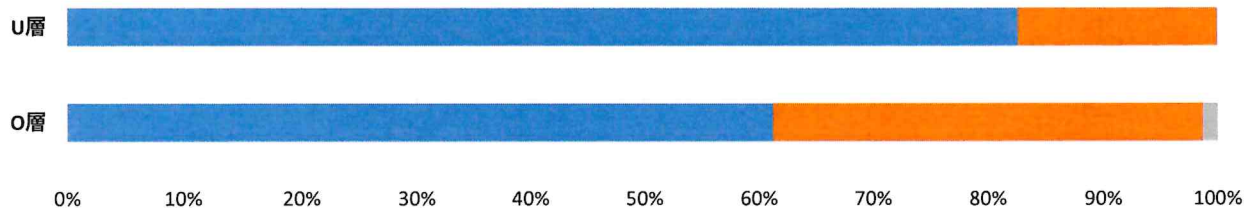
【質問番号7】 将来の夢や目標を持っていますか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



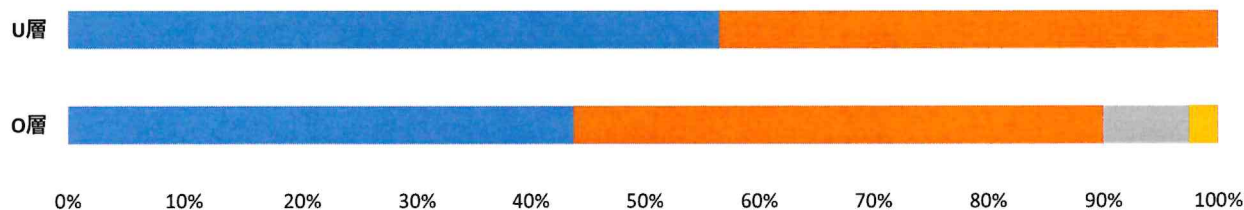
【質問番号11】 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



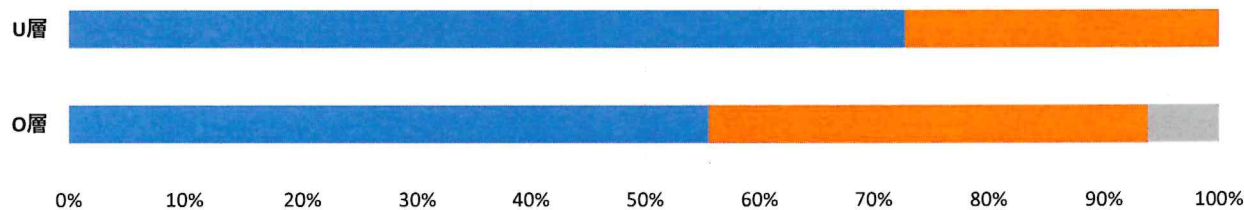
【質問番号12】 学校に行くのは楽しいと思いますか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



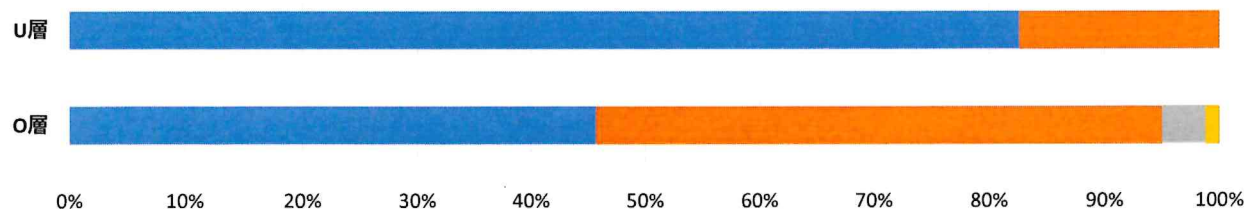
【質問番号14】 友達関係に満足していますか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



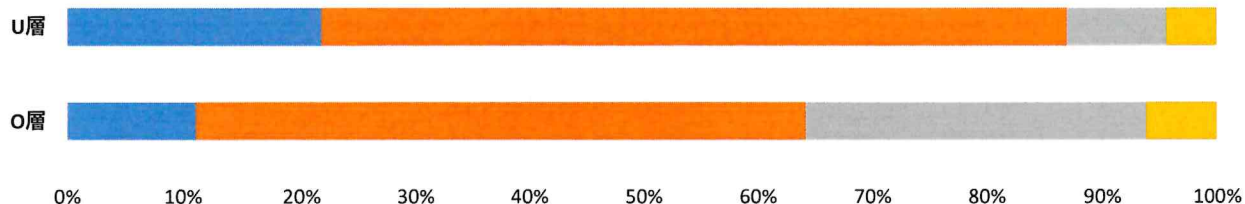
【質問番号15】 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



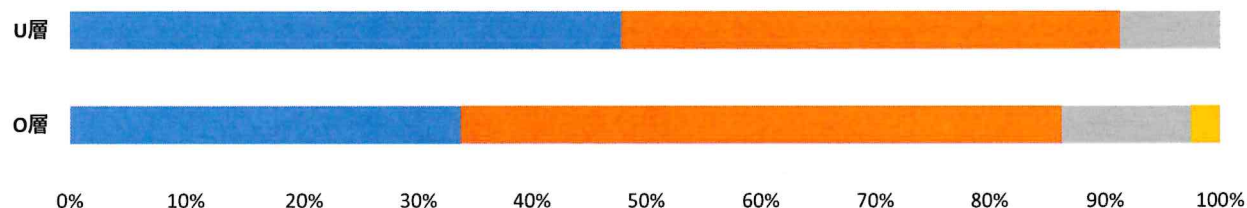
【質問番号27】 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



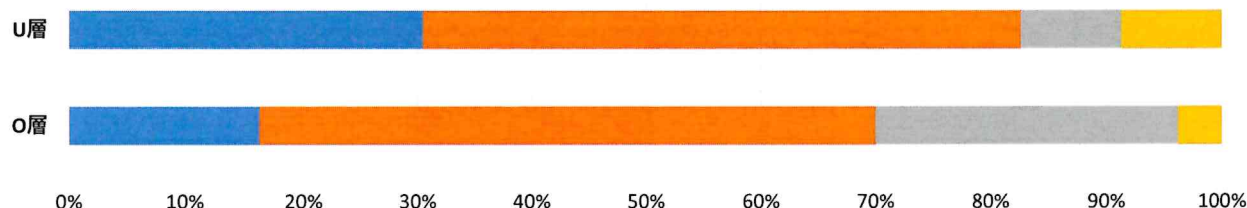
【質問番号29-4】あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか

■ 1. とてもそう思う ■ 2. そう思う ■ 3. あまりそう思わない ■ 4. そう思わない



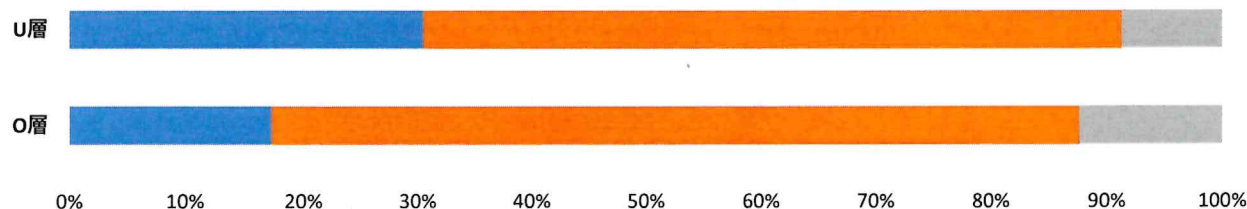
【質問番号31】1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

■ 1. 発表していた ■ 2. どちらかといえば、発表していた ■ 3. どちらかといえば、発表していなかった ■ 4. 発表していなかった



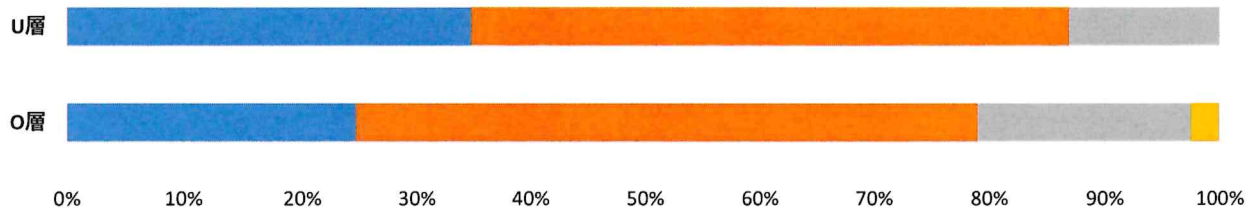
【質問番号32】1、2年生のときに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



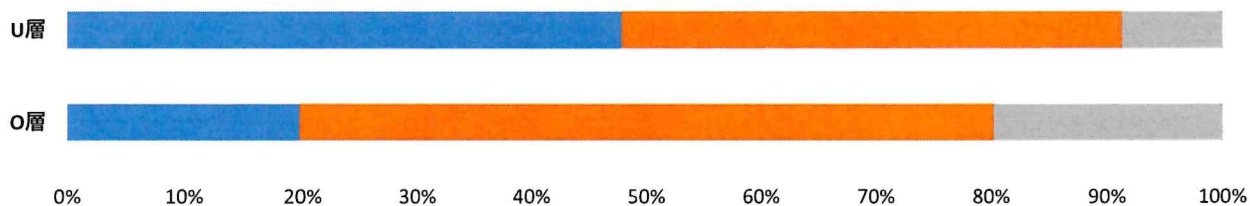
【質問番号33】 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



【質問番号36】 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば、当てはまる ■ 3. どちらかといえば、当てはまらない ■ 4. 当てはまらない



4 分析結果と学力向上に向けた今後の取組

■分析結果のポイント

- 教科に関する調査では、いずれの教科とも、設問ごとの平均正答率を比較したところ、その多くについて全国・全道を上回った。また、設問ごとの無回答率についても、国語は14問中13問、数学は15問中12問が、全国状況よりも低くなっている。こうしたことから、国語科及び数学科において、学年段階にふさわしい知識・技能やそれらを活用する力などをはぐくむ授業が実践されてきたことに加えて、調査においては、生徒は最後まで粘り強く取り組むことができたことがうかがえる。
- 生徒質問調査の主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善にかかわる質問項目において、肯定的な回答の割合が全国・全道と比較し高い傾向が見られ、学校において授業改善の取組が進められ生徒も同様の認識をもっていることがうかがえる。
- 質問番号31～33、36のクロス集計結果から、授業の中で、主体的・対話的で深い学びに取り組んだ生徒は、各教科の正答率が高い傾向が見られる。
- 挑戦心、達成感、自己有用感、幸福感等にかかわる多くの質問項目について、肯定的な回答の割合が全国・全道の割合を上回っている。また、このカテゴリーにかかわる質問項目のクロス集計結果から、挑戦心等が高い生徒は、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

※ 国の分析結果においては、「児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と児童生徒のウェルビーイングに関する回答との間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びが、児童生徒のウェルビーイングに影響を与えている可能性がある」とされていることに留意する必要がある。

- 質問番号7の結果から、将来の夢や目標について考え学ぶキャリア教育の一層の充実が必要である。
- 昨年度までと同様、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒や、友達関係に満足している生徒の割合が高い傾向が見られることから、望ましい集団（友人関係）づくりに向けた取組の成果がうかがえる。また、質問番号14のクロス集計結果から、友達関係に満足している生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られることから、今後も望ましい集団づくりに向けた取組を一層推進する必要がある。
- 質問番号2のクロス集計結果から、同じくらいの時刻に就寝するなど、規則正しい生活習慣が各教科の正答率に影響を与えている可能性がある。
- 質問番号5のクロス集計結果から、自分にはよいところがあると思う生徒は、各教科の正答率が高い傾向が見られる。令和5年度の国の分析結果においては、「先生がよいところ認めてくれる」と感じている児童生徒ほど、「自分にはよいところがあると思う」割合が高いとされていることから、学力向上の観点からも生徒を認め励ます生徒指導を一層充実する必要がある。
- 質問番号28の結果から、ICT機器を活用した授業頻度について、「ほぼ毎日」の回答の割合が90%程度と全国・全道と比べて非常に高い。それに伴い、ICTを活用する自信に関する質問項目（29-1,2,3,4）のいずれにおいても、肯定的な回答の割合が全国・全道と比べて高い。今後も、校内研修を核としたICTを効果的に活用した授業改善を推進する必要がある。

※ 国の分析結果においては、「ICT機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。」とされていることに留意する必要がある。

■令和7年度2学期以降の取組（取組の方向性と具体策）

1 主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善

- 全教科等の授業において、生徒が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組みることができるようにすることや、考えを深めたり、広げたりする学級やグループでの話し合い活動を充実する。

参考データ① 参照

- 今年度の教務チーム・研修系の計画に基づき、研究副主題「ICTを活用した思考力・判断力・表現力を育てる授業づくり」の実現に向けた各教科部会の授業実践を進める。

参考データ② 参照

2 個別最適な学びと協働的な学びの充実

- 基礎基本、応用から選択できるなど生徒一人一人に応じた学習課題や活動を工夫する。
- 生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と、情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫する。

3 生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等の向上とキャリア教育の推進

- 生徒一人一人の良い点や可能性を見つけほめる。

参考データ③ 参照

- 自分の興味関心や適性など、生徒が自分に向き合うとともに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を充実する。

参考データ④ 参照

4 望ましい学級・学年集団づくりと教職員と生徒との信頼関係の構築

- いじめを許さない意識の醸成といじめ対策の各種取組を徹底し、生徒同士の望ましい人間関係づくりを支援する。

参考データ⑤ 参照

- 気になる生徒への声かけなどのチャンス相談の日常化と学級担任以外の教職員による相談活動を実施する。

5 基本的な生活習慣・学習習慣の確立

- 平日に学習以外でメディアに触れる時間を *2時間以内 にすることなど、小学校とも連携して、生活習慣確立に向けた支援を行う。

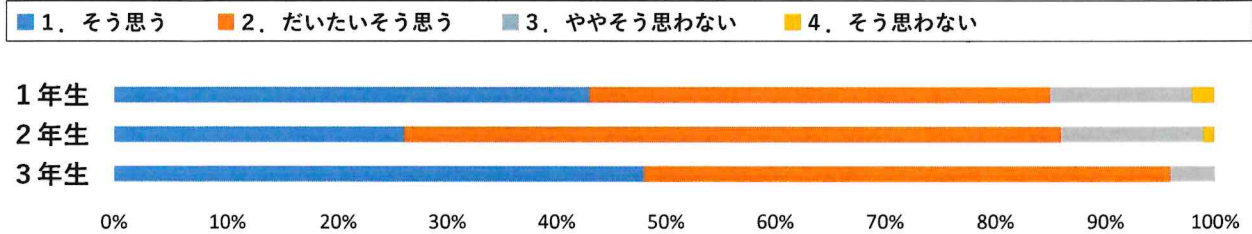
参考データ⑥ 参照

- 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える。

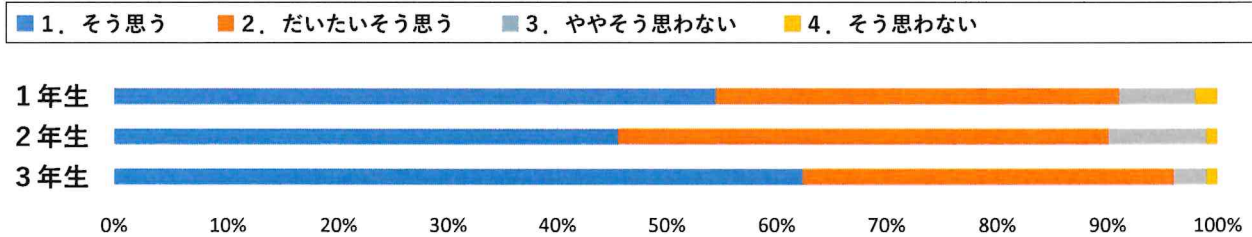
※北海道教育委員会作成リーフレット「時間の目安を決めて、子どもの生活リズムを整える」では、中学生の平日に学習以外でメディアに触れる時間を2時間以内としています。

【参考データ】 ※第1回神中生アンケート(R7.7実施)結果

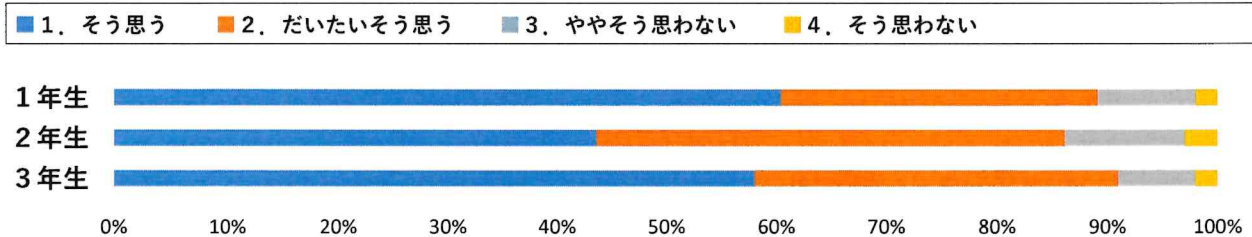
① 課題解決へ向けて、自分から進んで学習に取り組んでいる。



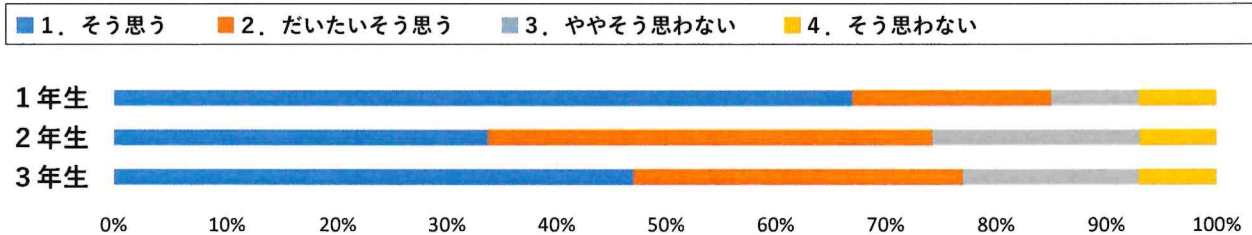
② 授業でiPadなどを活用して、工夫して発表している。



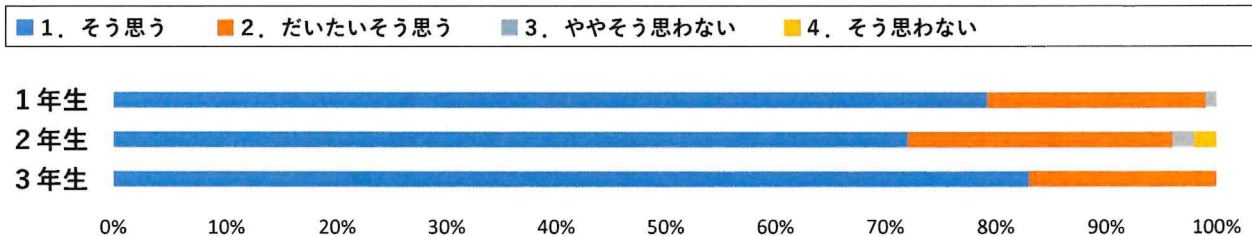
③ 自分には良いところがあると思う。



④ 将来の夢や目標を持っている。



⑤ 友だちと仲良く過ごしている。



⑥ 平日のインターネットの利用時間(娯楽目的)とゲームの時間の合計

